

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 4年 3月 7日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490500265		
法人名	株式会社 くれせん		
事業所名	グループホーム すまいる焼山		
所在地	〒 737-0936 広島県呉市焼山東 1-19-47 電話 (0823)33-7373		
自己評価作成日	令和 4年 3月 7日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=3490500265-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島県安芸郡海田町堀川町 1番8号
訪問調査日	令和 4年 3月 22日（火）

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームすまいる焼山は周りを山で囲まれ、のどかな雰囲気が特徴です。地域との交流も盛んで、地域の祭りや餅つきには毎年参加し入居者には喜ばれています。（昨年よりコロナウィルス感染予防の為、中止）家族的な雰囲気の中で職員と一緒に、料理をしたり散歩に出掛けたりして、利用者に寄り添い笑って生活できる我が家を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホーム すまいる焼山は、自然に囲まれ閑静な住宅地に位置しており、穏やかに過ごせる環境にある。コロナ禍で、多くの行事は中止になっているが、日々の生活の中で、近くの公園までの散歩や、通院での家族や職員の運転で外出する機会を設け、景色を楽しみにしておられ気分転換を心掛けている。また、元来地域交流は盛んに実施されており、近隣の幼稚園児とのふれあい、清掃活動、消防訓練、夏・秋祭り等、多くの参加者がある。現状では家族の面会も難しい中、職員は施設内でのレクリエーションでコミュニケーションを図り、「笑顔は、人をより美しくする」というコンセプトを意識し、事業所名である「すまいる」を実践している。家族は月1回発行の『すまいる便り』で日常の生活の様子が写真で確認出来、楽しみにされている。看護師も常駐し、管理者をはじめ、ベテラン職員の存在も大きく、定期的な研修を実施する事で、利用者への質の高いケアを提供出来、利用者、家族ともに安心できるグループホームです。

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	自然に囲まれた静かな環境と家庭的な温かさを心掛け、実施している。	施設理念の「自然に囲まれた静かな環境と家庭的なあたたかさ作りを心がけ安心して暮らせる施設」を玄関、事務所、相談室に掲示し、毎日確認している。また、会議時にも確認し職員一同理念について再確認し、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	例年は地域の祭りや餅つき大会等の行事に参加するなど交流が持てたが、昨年からコロナウイルス感染予防の為、殆どの行事が中止となる。	現状コロナ禍において、地域行事(団地で行われる消防訓練、夏祭り(職員が屋台の出店)、餅つき、秋祭りには子供(やぶ)が立ち寄り)は、ほとんど中止になっており、交流は難しい。しかしながら、民生委員の方からおむつ券を持参して下さったり、地域の回覧板から、情報を得て繋がりを保っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進委員会を通して自治会、民生委員、老人会に情報を発信している。(昨年より、コロナウイルス感染予防の為、中止)		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	例年は2ヶ月に1回実施しているが、昨年より、コロナウイルス感染予防の為、中止となる。	例年2ヶ月に1回、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、管理者、ケアマネージャー等の参加により、事業所の状況報告(入居、行事、活動)を主に、意見、提案、連絡事項を確認し合っていたが、現在は書面のみの開催になっている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	地域包括センターには、運営推進委員会に出席していただきアドバイスをもらっている。市役所には、介護保険課の更新時や不明な点がある時は足を運んだり、電話で問い合わせ相談をしている。	市役所へ書類申請時に出向き、不明な点があればアドバイスを頂いている。また、地域包括支援センターとは、例年運営推進会議で意見、アドバイスを頂き情報収集をしているが、現在は開催出来ていない為、電話で連絡や相談をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について不適切だと思われる対応があれば、皆で検討し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束はしていない。全体会議や3ヶ月に1回、身体的拘束廃止委員会を開催し、研修を含め職員間で意志統一を図っている。ベッド柵、車いすでの拘束、センサーマット等について、意見を協議し、身体拘束をしないケアを実践し、意識向上に努めている。外に出たい利用者に気付いた時は、言葉かけの工夫をしたり、職員が一緒に出かけて気分転換を図っている。	全体会議、身体的拘束廃止委員会、研修で話し合う事も大切ですが、その場面、その都度、の対応が正しいケアに繋がると考えますので、今後も全員で取り組まれる事を望みます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	職員全体で虐待に繋がりそうな段階で、注意し合い対策を考える。		

グループホーム すまいる焼山

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度の必要な方があれば、手続きのサポートをしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居の契約時、説明する時間を十分に設け、納得のうえ入居していただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	コロナの影響で面会禁止になっている期間が多いが、状況に応じ短時間の面会を実施したり、電話やお便りで状況を報告し、意見が出しやすい話し方を心掛けている。	現在、面会は中止中であるが、昨年少し落ち着いた時期に、相談室で面会をした事もある。その他としては、電話対応、「すまいる便り」を月1回発行する事で、施設での利用者の日々の様子を写真入りで報告する事で、家族に安心感を提供している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員個人個人の意見や悩み事を聞き、働きやすい職場になるよう努めている。	月1回の少人数での会議を実施している。それぞれの意見、要望、改善点等を出し合い、検討する事で、運営に活かしている。また、管理者は個人面談を行い、個々の悩み等の意見を聞き、それらの意見を検討して、円滑に運営出来るよう反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	雇用通知書にて掲示している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修への参加。費用負担の実施。個別面談の実施。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	呉市や呉市介護福祉士会主催の研修の参加。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ケアマネジャーが情報を収集し、入居前に自宅を訪問。生活環境を把握し、本人、家族に細かく聞き取りを行う。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	密に連絡を取り、話しやすい雰囲気づくりを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	御家族と連携を取りながら、変化や状況に応じて他施設の紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者様本位で考え、一緒に寄り添いながら色々な事に取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	密に連絡を取り、可能な限り要望を聞き関係づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	友人、知人の面会は基本的には歓迎し、面会出来ない時には、電話で話していただく等、配慮している。	例年、家族・友人・知人の面会、訪問があり馴染みの関係が途切れないように支援しているが、面会中止でもあり感染予防の観点から支援出来ていない。基本的に手紙は家族へ届け、親戚・知人の方へは電話で対応している。病院受診時は、管理者、もしくは家族が同行し、短時間ではあるが交流に繋げている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	個々の思いを配慮し、デイルームでも落ち着いて過ごしていただけるような環境づくりを実施している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了時、今後も相談などお聞きできる事を伝え、電話や来所された時には、対応している。		

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意向を聞き取り、自分で出来る事はしていただいている。聞き取りが今後の方は日常の会話の中で意向を組み取り職員間で共有している。	入所時に本人や家族の要望や生活歴、嗜好等を、アセスメントし、その後は日々の様子や言動を「ケース記録」に記録している。それをもとに会議の場で全職員で話し合って共有し、その人らしい生活を支える事が出来る様に、利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努め、意向を組み取り、支援している。困難な場合は、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	御家族、ケアマネジャーから情報を収集し、細かい聞き取りを行う。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	今までの生活歴を把握し、好きなことを続けていただきながら、その日の体調、気分に応じて対応している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	会議が出来ない為、連絡ノートや申し送り表などで状況を報告しチームで情報を共有している。	モニタリングは毎月1回実施しており、家族からも聞き取りをしている。ケース記録を確認し、管理者、担当者、医師、看護師、薬剤師からの意見を反映し、ケアプランを作成している。また、見直しは6ヶ月に1回行っているが、利用者の状況に変化があれば、その都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成し、職員間で共有している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々、個別にケース記録に記入し活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	一人一人のニーズに合わせた介護計画を作成し、状態に変化があれば、その都度見直し検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	施設のすぐ横の公園を散歩したり、草取りなどを手伝っていただく事で、楽しみが持てるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	月に1回の往診を実施し、頻繁に連絡を取っている。	かかりつけ医は、月1回の往診があり、訪問歯科は週1回、他科受診は家族もしくは、管理者が同行している。医師による24時間体制で、看護師も常駐していることから、案内パンフレットの通り「ご家族は安心、ご利用者は安全」の環境下にある。	

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	職場内の看護師と常に連絡をとり、何か変化があれば相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は医療機関のソーシャルワーカーと頻繁に連絡をとり、退院に向けての連携を取っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	医師、ご家族と話し合いながら、ご家族、ご本人の思いを組み取っていけるよう取り組んでいる。	看取りは実施しており、入所時の契約で「重度化した場合における対応及び看取りに関する指針」を家族へ説明し同意を得ている。実際に重度化した場合は、医師・看護師・家族・管理者・職員等で今後の方針を検討し、利用者、家族の意向に沿った適切な医療が受けられる体制作りが確立されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	職場での勉強会を実施している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署の指導のもと、避難訓練を実施している。	年2回、消防署(年1回)の立合いの下、避難訓練を実施している。消防団員の協力を得て実施し、基本的な事やアドバイスを受ける他、避難時の指導を受けている。内1回は、事業所で昼夜間の通報、初期消火、誘導、避難場所等確認し合い、水消火器を使用し訓練をしている。既に避難訓練のマニュアルを作成している。	万に備え、ハザードマップの再確認、地震対策、及び地域の方々との協力体制を強固にされる事を望みます。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	日々の業務の中で職員の言葉がけが気になることがあれば、その都度注意している。個人情報の取り扱いに留意し守秘義務を厳守している。	年間計画の中で、研修を実施している。接遇面で言葉遣い、言葉かけに注意し、トイレ、入浴時は特に配慮している。また、職員間で気づきの点があれば、その都度指摘し合っている。プライバシーについては、人格の尊重と個人記録の取扱いに留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	認知症の進行により、意思表示が難しい方には、日々の関わりの中で本人の意向を組み取り支援につなげている。		

グループホーム すまいる焼山

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者本位で考え、出来る限り本人のペースで過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	定期的な訪問美容で髪の毛のカットと化粧をして気分転換が出来る。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	食べ物の好みを聞き、定期的に野菜切りなど手伝っていたきながらホーム食を提供している。	食材は3食とも配食業者から調達しており、湯せんして提供している(3種類あり、普通食、ミキサー、やわらかムース)。ご飯とみそ汁は事業所内で作っており、温かい食事を喜ばれている。行事食は、月1回あり、誕生日には手作りケーキや、おはぎも作っており、食事の希望をお聞きすると、さしみ、寿司が多く、果物、お菓子(柿の種等)の希望もあり、対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分量は常に記録し、職員で把握し少なければ促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	週1回の訪問歯科によるクリーニングや、1日3回の口腔ケアを実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄パターンを把握し、可能な限りトイレでの排泄ができるよう取り組んでいる。	お一人おひとりの排泄パターンをチェック表から把握し、言葉かけや誘導をしてトイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。また、座薬等の薬対応も行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	水分量や薬の調整など看護師と医師とで連携し排泄管理を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	体調や気分配慮しながら、無理強いせず出来るだけタイミングに合わせて対応している。	週2回を基本とし、毎日入浴剤を使用して、香りや色を楽しんで、気分転換を図っている。体調に合わせ、清拭、足浴もあるが、何よりリフト浴がある事で、利用者全員浴槽につかる事が出来、職員の労力も違い、衛生面でも助かっている。利用者は、楽しい入浴時間になっている。入浴したくない人には時間の変更、言葉かけの工夫、職員の交代など、無理強いせず、一人ひとりに応じた入浴の支援をしている。	

グループホーム すまいる焼山

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	個々の生活習慣やその日の体調や気分に応じて、日中も休んでいただくなど対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	主治医、薬剤師、看護師と連携し対応している。職員も薬について把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	個々の能力に応じてお手伝いをお願いしたり、レクリエーションなど行い楽しめる時間を作り気分転換している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナウィルスの影響で外出が出来なかった為、室内で行事を多数行った。	例年、買い物や外食、ドライブ等で外出出来ていたが、コロナ感染予防の為、今は出来ていない。ただし、近くの公園、事業所周辺の散歩が主であるが、可能な限り外気に触れ恵まれた環境下での、いい空気を吸う事が気分転換になっている。利用者とのコミュニケーションは、室内での行事をする事で、支援に活かされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個人用のお金を預かり、要望があった時には、了解を得て対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙のやり取りや直接ご本人と電話で会話していただくよう支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	職員で分担して掃除を行い、清潔保持に努めている。壁には季節に合わせた手作りの作品を飾り温かい雰囲気づくりを心掛けている。	居間には大きな窓があり、陽の光が差し込み、明るく居心地の良い空間になっている。コロナ禍において、温度・湿度・換気を徹底し、より心地よく過ごせるよう配慮している。また、壁面には季節を感じられる作品を毎月入れ替えて展開しており、桜に似たアーモンドの木も飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間では、無理強いせず、ご本人の体調や気分に応じ、毎日トランプやかかるた、体操などを楽しむ時間を設けている。		

グループホーム すまいる焼山

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居前に使用していた馴染みの物を出来るだけ取り入れ、ご希望を聞きながら心地良い空間となるように心掛けています。	自宅で使い慣れ、馴染みのあるタンス・絵・孫の写真・衣装ケース・ラジカセ・花のカレンダー・仏壇・位牌・イス・テーブル等を置かれ、本人が居心地よく過ごせるよう工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	ご本人の残存機能を生かして、自立した生活が出来るよう環境整備している。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホーム すまいる焼山

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム すまいる焼山

作成日 令和 4年 3月 23日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点，課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	身体拘束について不適切だと思われる対応がある。	身体拘束をしないケアを徹底する。	身体拘束についての研修を施設内で行う。	3か月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には，自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は，行を追加すること。